

2023年 12分野、計50項目に渡るDX/ITソリューションの導入実態における変化

調査設計/分析/執筆：岩上由高

ノークリサーチ（本社：〒160-0022東京都新宿区新宿2-13-10武蔵野ビル5階23号室：代表：伊嶋謙二 TEL：03-5361-7880 URL：http://www.norkresearch.co.jp）は中堅・中小企業における12分野、計50項目に渡るDX/ITソリューションの導入実態における変化に関する調査を実施し、その結果を発表した。本リリースは「2023年版 中堅・中小企業のDXおよびITソリューション選定の実態レポート」のサンプル/ダイジェストである。

＜定量データを踏まえて、今後も市場が伸びる分野とそうでない分野を把握しておくことが大切＞

- 12分野の導入済み/導入予定の比較ランキングは上昇5分野、下降5分野、横ばい2分野
- 生成AIは「助手として上手く活用するが、先生として頼るのは避ける」といった提案が堅実
- 組立製造業は自動化やシステム連携の手段で「ノーコード/ローコード」を選ぶ割合が高い
- 初年度合計費用の平均値は「3Dプリンタの活用」が701万円、「ロボットの活用」が527万円

調査対象企業：年商500億円未満の中堅・中小企業700社（日本全国、全業種）（有効回答件数）

調査対象職責：経営層およびIT活用の導入/選定/運用に関わる立場

調査実施時期：2023年4月～5月

※詳細は本リリースの10ページを参照

12分野の導入済み/導入予定の比較ランキングは上昇5分野、下降5分野、横ばい2分野

本リリースの元となる調査レポート「2023年版 中堅・中小企業のDXおよびITソリューション選定の実態レポート」では有効回答700社のユーザ企業に対して、12分野、計50項目に渡るDX/ITソリューションの導入実態（導入済みの割合、導入予定の割合、導入時に要した費用など）を尋ねた結果を分析している。（DX/ITソリューションの一覧は本リリースの5～9ページを参照）

以下のグラフは計50項目のDX/ITソリューションを12の分野別にまとめた時の導入済み割合（左表）、導入予定割合（右表）の順位を並べたものだ。導入済みと比較して導入予定における順位が上がった項目は赤矢印、下がった項目は青矢印、変化がないものは緑矢印を記載している。

DX/ITソリューション分野の導入済み割合と導入予定割合の順位比較

S1-1S.導入済みのDX/ITソリューション（複数回答可）

<<コミュニケーション改善/データ共有>>	42.7%
<<ペーパーレス化>>	37.3%
<<自動化/システム連携/開発ツール>>	35.0%
<<販売/マーケティングの改善や刷新>>	24.3%
<<既存の業務システムにおけるDX>>	16.4%
<<クラウド活用/レガシー移行>>	13.3%
<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>	12.6%
<<センサ+AIによるデータ分析>>	12.6%
<<VR/AR/デジタルサイネージ>>	11.1%
<<ロボットの活用>>	9.0%
<<ドローンの活用>>	6.9%
<<3Dプリンタの活用>>	6.9%

S2S.導入予定のDX/ITソリューション（複数回答可）

<<自動化/システム連携/開発ツール>>	27.3%
<<コミュニケーション改善/データ共有>>	21.1%
<<ペーパーレス化>>	18.4%
<<販売/マーケティングの改善や刷新>>	14.4%
<<既存の業務システムにおけるDX>>	9.7%
<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>	8.6%
<<センサ+AIによるデータ分析>>	8.6%
<<クラウド活用/レガシー移行>>	8.6%
<<ロボットの活用>>	6.3%
<<VR/AR/デジタルサイネージ>>	4.6%
<<3Dプリンタの活用>>	3.4%
<<ドローンの活用>>	3.3%

出典：2023年版 中堅・中小企業のDXおよびITソリューション選定の実態レポート（ノークリサーチ）

順位の変化が示すように、<<コミュニケーション改善/データ共有>>や<<ペーパーレス化>>は引き続き有望な分野だが、今後はWeb会議の利用や紙面の電子化に留まらず、それらを業務改善にも活かす<<自動化/システム連携/開発ツール>>が重要な役割を果たす。また、昨今注目を集めている<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>は黎明期であるにも関わらず導入済みで7位、導入予定では6位に位置している。さらに<<ロボットの活用>>や<<3Dプリンタの活用>>といった新たなデバイスの活用も徐々に進むと予想される。次項以降では調査レポートのこうした分析結果の一部をサンプル/ダイジェストとして紹介する。

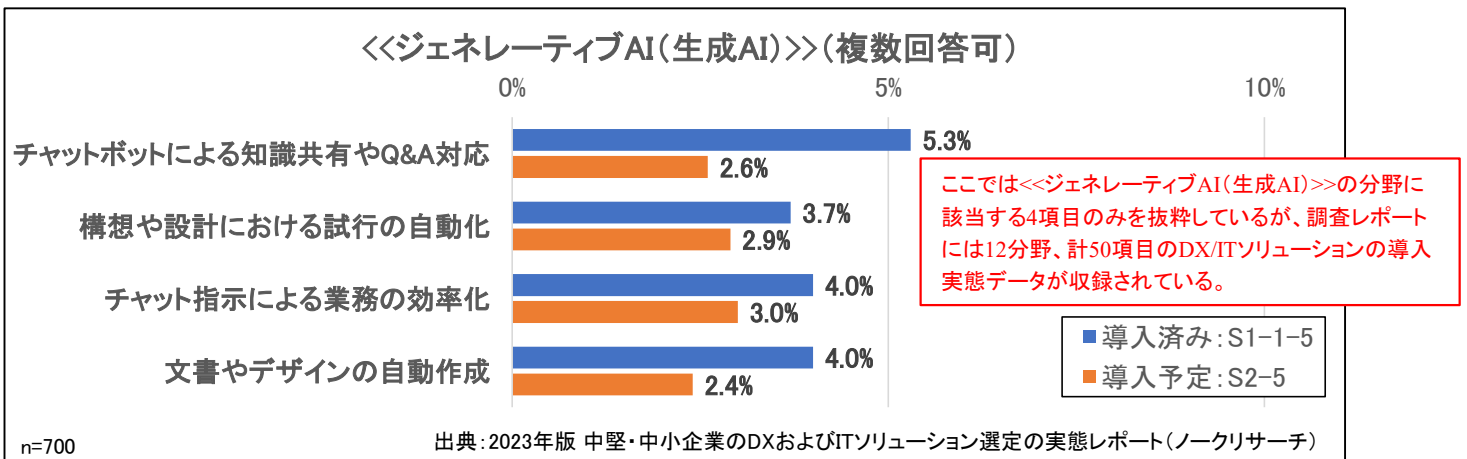
生成AIは「助手として上手く活用するが、先生として頼るのは避ける」といった提案が堅実

本リリースの元となる調査レポートでは、前頁の12分野の粒度だけでなく、更に細分化した計50項目に渡る具体的なDX/ITソリューションを具体例と共に列挙し、それらの導入実態についても集計/分析を行っている。例えば、<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>の分野に該当するDX/ITソリューションは以下の4項目である。(計50項目に渡るDX/ITソリューションの詳細は本リリースの5~9ページを参照)

<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>

- ・チャットボットによる知識共有やQ&A対応 自然な対話を行えるAIチャットボットを活用して、社内や顧客のQ&A対応を自動化する 例)ユーザーローカル「サポートチャットボット」
- ・構想や設計における試行の自動化 元のテキストや画像から様々なバリエーションを自動生成し、構想や設計に役立てる 例)mign「studiffuse(スタディフューズ)」
- ・チャット指示による業務の効率化 チャットで与えた指示に従って文書要約、データ分析、プレゼン作成などを自動で行う 例)Microsoft「Microsoft 365 Copilot」、グーグル「Google Workspace」のAI関連機能強化
- ・文書やデザインの自動作成 AIを活用して、キャッチコピーやロゴデザインの素案などを自動的に生成する 例)Midjourney「Midjourney」、Stability AI「Stable Diffusion」

以下のグラフは中堅・中小企業全体における上記4項目の導入済み割合(青帯)と導入予定割合(橙帯)を示したものだ。



<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>は一般のニュース報道などでも日々取り上げられているが、上記のグラフが示すように中堅・中小企業における活用という観点ではまだ一部に留まる。だが、IT企業としては今後に備えて動向を注視しておくことが大切だ。

ChatGPTが話題の先鞭となったことも影響し、導入済みでは「チャットボットによる知識共有やQ&A対応」(※1)が若干ながらも相対的に高い値を示している。だが、こうしたLLM(大規模言語モデル、Large Language Model)を基盤とするAIチャットボットは同一製品のバージョンを混同したり、業種/業態に固有の知識が不足している場合もある。(その点に関する詳細は以下の関連リリースを参照) そうした状況も反映し、今後はグラフが示すように「構想や設計における試行の自動化」(※2)や「チャット指示による業務の効率化」(※3)と※1の差が小さくなると予想される。※1では正しい内容の応答が求められるが、※2や※3は大量のデータを元に結果を自動生成し、その選択/評価は利用者が行う。誤りを許容する前提で人手の作業を効率化できれば十分という考え方であれば、現段階のLLMのレベルとも適合しやすい。また、「文書やデザインの自動生成」は著作権保護との兼ね合いが整備されれば、「多数のバリエーションを自動生成し、その中から選択する」という作成方法が広く普及する可能性もある。いずれにしても、現段階は『助手として上手く活用するが、先生として頼るのは避ける』という方針での提案が堅実と考えられる。

【関連リリース】2023年 ChatGPTなどの大規模言語モデルをIT市場分析に活用する際の留意点と対策

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023LLM_rel_ex.pdf

次頁では業種別の動向などについて述べる。

組立製造業は自動化やシステム連携の手段で「ノーコード/ローコード」を選ぶ割合が高い

本リリースの元となる調査レポートでは、中堅・中小企業全体における分析結果だけでなく、以下に列挙した年商や業種などの様々な企業属性別の集計/分析も行っている。

年商区分:

- ・5億円未満
- ・5億円以上～50億円未満
- ・50億円以上～100億円未満
- ・100億円以上～300億円未満
- ・300億円以上～500億円未満

業種区分:

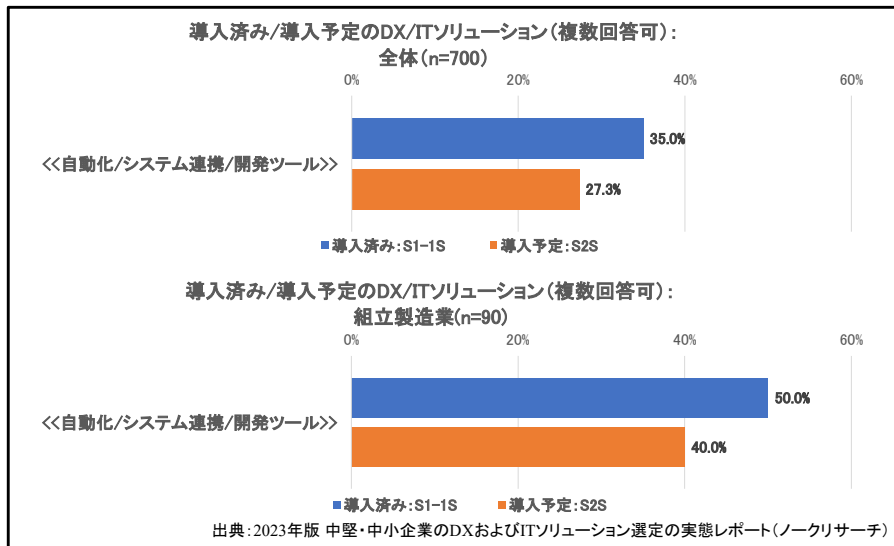
- ・組立製造業
- ・加工製造業
- ・建設業
- ・卸売業
- ・小売業
- ・運輸業
- ・IT関連サービス業
- ・一般サービス業

地域区分:

- ・北海道地方
- ・東北地方
- ・関東地方
- ・北陸地方
- ・中部地方
- ・近畿地方
- ・中国地方
- ・四国地方
- ・九州/沖縄地方

上記に加えて、従業員数、職責、IT管理/運用の人員規模、ビジネス拠点(オフィス、営業所、工場など)の状況といった属性別の集計を行っている。

以下のグラフは12分野の1つである<<自動化/システム連携/開発ツール>>の導入済み割合と導入予定割合の数値を中堅・中小企業全体と組立製造業で比較したものだ。導入済みと導入予定のいずれにおいても、組立製造業は全体と比べて高い

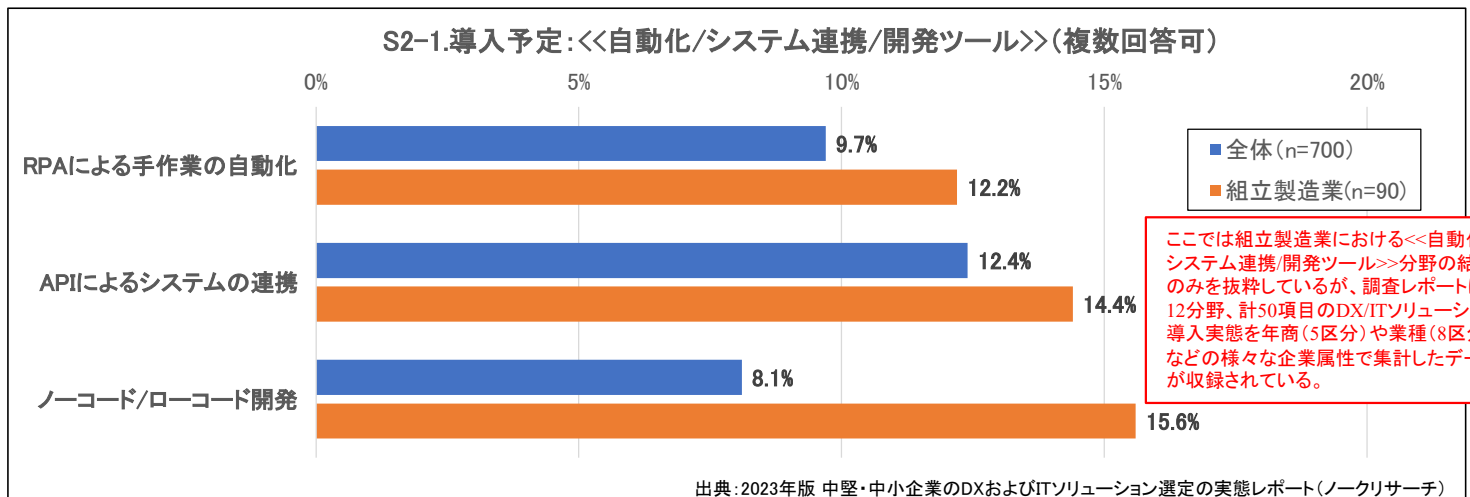


値を示している。つまり、現状のみならず今後においても、組立製造業に対しては自動化やシステム連携の提案が有効ということになる。

そこで、<<自動化/システム連携/開発ツール>>の分野に該当する以下のDX/ITソリューションの導入予定割合を中堅・中小企業全体と組立製造業で比較したものが以下のグラフである。

- ・RPAによる手作業の自動化
- ・APIによるシステムの連携
- ・ノーコード/ローコード開発

具体例も含めた上記のDX/ITソリューション項目の詳細については本リリース5～9ページを参照



ここでは組立製造業における<<自動化/システム連携/開発ツール>>分野の結果のみを抜粋しているが、調査レポートには12分野、計50項目のDX/ITソリューション導入実態を年商(5区分)や業種(8区分)などの様々な企業属性で集計したデータが収録されている。

自動化やシステム連携を実現する手段にはRPA(ヒトによる手作業の自動化)、API(システム間の連携)、ノーコード/ローコード開発(個別に実装が必要な自動化やシステム連携をプログラミングを最小限に抑えて実施する)といった様々な選択肢がある。上記のグラフを見ると、組立製造業は中堅・中小企業全体と比べて「ノーコード/ローコード開発」の導入予定割合が高いことがわかる。したがって、IT企業がノーコード/ローコード開発を訴求したい場合には組立製造業が有望な業種となってくる。ここでは組立製造業に関する分析結果の一部を抜粋したが、本リリースの元となる調査レポートでは年商別(5区分)や業種別(8区分)の詳しい集計/分析を行っている。次頁ではDX/ITソリューション導入に要した費用について触れている。

初年度合計費用の平均値は「3Dプリンタの活用」が701万円、「ロボットの活用」が527万円

さらに、本リリースの元となる調査レポートでは、導入済みのDX/ITソリューション毎に実際に拠出した初年度合計費用(万円)を尋ねた結果も集計/分析している。ここでの「初年度合計費用」とは、各々のDX/ITソリューション導入時に必要となったハードウェア、ソフトウェア、クラウドサービス、コンサルティング、システムインテグレーションといった支出の初年合計額を指す。

以下のグラフは本リリースの冒頭で列挙した12分野の中から、<<3Dプリンタの活用>>および<<ロボットの活用>>の2分野に該当するDX/ITソリューションの初年度合計費用の分布を箱ひげ図で表したものだ。

<<3Dプリンタの活用>>

・3Dプリンタを用いた新たな製造手法の確立

組立や調理を伴わず製品/建物/食品などを一体成形で製造する
例) Polyuse「国内初の建築許可を得た3Dプリント建築倉庫」

・3Dプリンタを用いた新たなサービスの創出

個人の依頼も含めた立体造形作成を請け負うサービスを展開する
例) DMM.com「DMM.make 3Dプリント造形サービス」

<<ロボットの活用>>

・自走ロボットや自動運転による業務の自動化

倉庫でのピッキング/梱包や店舗での棚出しなどを自動化する
例) トラスコ中山「プラネット埼玉」(パレットやコンテナの収納/搬送を自動化)

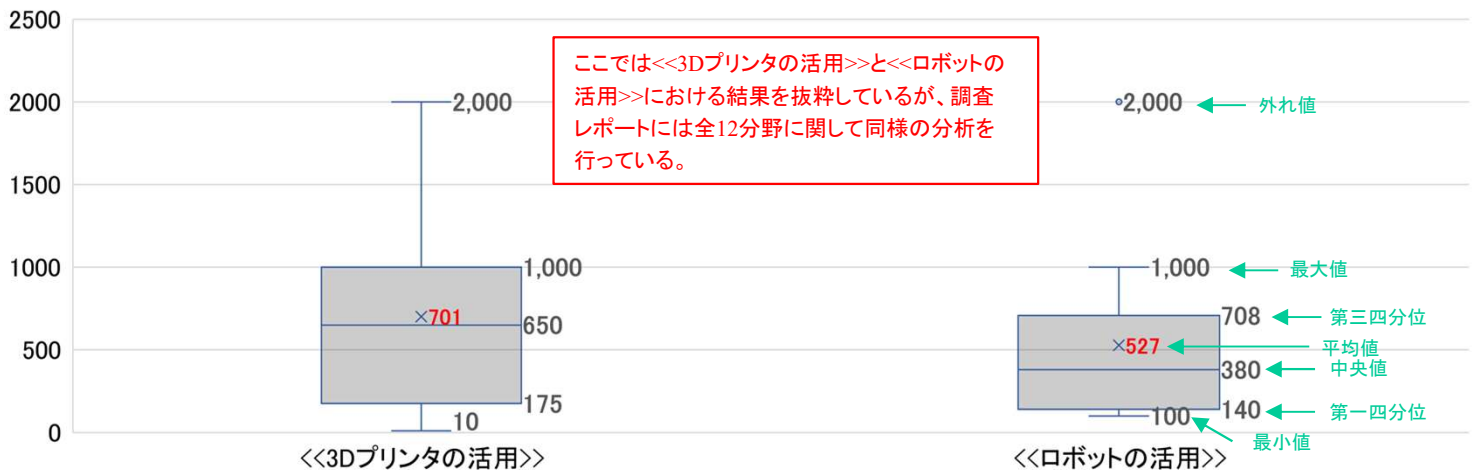
・ロボットとヒトの協働作業による業務の効率化

アーム型ロボットがヒトと手分けをして組立や詰込の作業を行う
例) カワダロボティクス「NEXTAGE」(カメラと2本のアームを持ち、ヒトと協働して作業を行うロボット)

・ロボットやバーチャルヒューマンによる接客

音声や映像を認識するロボットがヒトと対話し、案内や接客を行う
例) 日立製作所「EMIEW」(自律走行も可能なコミュニケーションロボット)

S1-3.最も重要な導入済みのDX/ITソリューションに拠出した初年度合計費用(万円)



出典:2023年版 中堅・中小企業のDXおよびITソリューション選定の実態レポート(ノークリサーチ)

本リリースの冒頭で述べたように、<<3Dプリンタの活用>>と<<ロボットの活用>>はいずれも導入済みと比べて時の導入予定における順位が上がっている分野である。だが、いずれも中堅・中小企業における取り組みはまだ一部に留まるため、導入時にユーザ企業が拠出した初年度合計費用にばらつきが見られる点に注意する必要がある。平均値は<<3Dプリンタの活用>>が701万円、<<ロボットの活用>>が527万円と前者の金額の方が大きい。ただし、第三四分位と第一四分位の差(この範囲内に全体の50%が含まれる)は<<3Dプリンタの活用>>は825万円(=1000 - 175)、<<ロボットの活用>>は568万円(=708 - 140)となっている。つまり、<<3Dプリンタの活用>>は<<ロボットの活用>>よりも平均値が高いが、その反面ばらつきも大きいので、ソリューション提案の価格設定にも注意を要する。ここでは上記2分野の結果のみを抜粋したが、調査レポートでは12分野全てについて同様の分析を行っている。

導入済み/導入予定の割合および導入費用を集計したDX/ITソリューション一覧(1/5)

本リリースの元となる調査レポートでは、以下のように12分野、計50項目のDX/ITソリューションを具体例と共に列挙し、それらの導入済み/導入予定の割合および導入に要した費用を尋ねている。

<<自動化/システム連携/開発ツール>>

・RPAによる手作業の自動化

システム間のデータ共有に伴う手作業をRPAによって自動化することでシステムの統合/連携を図る

例) NTTアドバンステクノロジー「WinActor」、RPAテクノロジーズ「BizRobo!」

・APIによるシステムの連携

各システムが備える連携手段(API)を仲介するサービスを利用してシステムの統合/連携を実現する

例) Workato「Workato」、アステリア「ASTERIA Warp」

・ノーコード/ローコード開発

複雑なプログラミングを必要としないツールを活用して業務システムを構築する

例) グレープシティ「Forguncy」、サイボウズ「kintone」

<<コミュニケーション改善/データ共有>>

・Web会議サービスを利用した顧客獲得

インターネットを介して、遠隔で顧客と商談を行ったり、複数の視聴者に向けてセミナーを開催する

例) Bloom Act「B-Room」、ベルフェイス「bellFace」

・Web会議サービスを利用した人事面接

インターネットを介して、遠隔で人材採用時の面接や選考を行う

例) ZENKIGEN「harutaka」、manebi「playse(プレイス)」

・会議における議事録の作成や要約

AI音声認識などを活用して会議の内容を自動でテキスト化する

例) アドバンス・メディア「AmiVoice Scribe Assist」、NTTコミュニケーションズ「COTOHA Meeting Assist」

・社内外に散在する文書の集約と管理

API連携などによって、様々な業務で利用する文書を1つのオンラインストレージにまとめて格納する

例) ストラテジット「Dropbox to DX Suite」、Box「Box for Microsoft Office/Teams」

<<ペーパーレス化>>

・契約/取引のペーパーレス化

契約、受発注、請求などの対外的な文書を電子化する

例) 弁護士ドットコム「クラウドサイン」、ペーパーロジック「paperlogic電子契約」

・現場業務のペーパーレス化

報告、接客、チェック/共有などの現場作業を電子化する

例) カミナシ「KAMINASHI」、CONIT「SITE」

・販促媒体のペーパーレス化

スマホアプリなどによって広告やチラシを電子化する

例) ONE COMPATH「Shufoo!」、ロコガイド「トクバイ」

<<販売/マーケティングの改善や刷新>>

・顧客と対面せずに個別ニーズを把握する

Webサイトやアプリを通じて顧客の嗜好を把握し、それを反映した製品/サービスを提供する

例) ZOZO「ARメイク」(スマートフォンに映した自分の顔に仮想的にメイクを施せるサービス)

・顧客の意見や問い合わせを有効活用する

コールセンタ(音声)やWebサイト(テキスト)に蓄積されたデータを分析して改善点を見つける

例) リコー「仕事のAI お客様の声(VOC)シリーズ」

導入済み/導入予定の割合および導入費用を集計したDX/ITソリューション一覧(2/5)

前頁からの続き

<<販売/マーケティングの改善や刷新>>

・ライブコマース(生配信のオンライン販売)

ライブ/リアルタイムかつ対話的にネットワークを介して商品やサービスを紹介/販売する
例) ベイクルーズ「LIVE STYLING」(ライブ動画を見ながら購入できるファッション通販)

・アプリが不要なSNS上の企業独自サービス

顧客にアプリ導入を求めることなく、企業が予約、注文、顧客管理などを独自に実装できる
例) LINE「LINEミニアプリ」(企業がLINE上で動作する簡易サービスを提供できる)

・SNSで顧客と直接繋がった製造直売(D2C)

SNSで商品/サービスの認知を高め、販路を設けずに直接販売する形態、D2Cとも呼ばれる
例) スパイスファクトリー「D2Cブランド構築支援」

・eコマースサイト構築基盤サービス

テンプレートや開発ツールを備えた基盤を利用して、ECを展開するWebサイトを素早く構築する
例) BASE「BASE」、ヤプリア「Yappli」

・キャッシュレス決済サービス

キャッシュレス決済の導入やそれに付随するポイント/チケットを利用した購買の活性化を図る
例) 日立システムズ「キャッシュレス地域活性化支援サービス」

・電子商取引基盤サービス

電子化された企業間取引サービス基盤を利用し、売買の効率化や新規取引先の開拓を図る
例) インフォマート「BtoBプラットフォーム」

<<ジェネレーティブAI(生成AI)>>

・チャットボットによる知識共有やQ&A対応

自然な対話を行えるAIチャットボットを活用して、社内や顧客のQ&A対応を自動化する
例) ユーザーローカル「サポートチャットボット」

・構想や設計における試行の自動化

元のテキストや画像から様々なバリエーションを自動生成し、構想や設計に役立てる
例) mign「studiffuse(スタディフューズ)」

・チャット指示による業務の効率化

チャットで与えた指示に従って文書要約、データ分析、プレゼン作成などを自動で行う
例) Microsoft「Microsoft 365 Copilot」、グーグル「Google Workspace」のAI関連機能強化

・文書やデザインの自動作成

AIを活用して、キャッチコピーやロゴデザインの素案などを自動的に生成する
例) Midjourney「Midjourney」、Stability AI「Stable Diffusion」

<<センサ+AIによるデータ分析>>

・複数拠点を連動させるためのセンサ+AI活用

複数の拠点(工場、倉庫、店舗など)に跨るデータを連携させて、全体としての業務効率を改善する
例) 東芝デジタルソリューションズ「LADOCsuite/WES」(ヒトの作業と機器の制御を統合管理)

・業務プロセスを対象としたセンサ+AI活用

製造ライン、パレットの動き、トラックの走行経路などをセンサで把握/分析し、業務効率を改善する
例) Automagi「AMY INSIGHT」(カメラを用いた作業状況分析)

・従業員を対象としたセンサ+AI活用

従業員の勤務状況や体調をセンサで把握/分析し、シフト管理や健康管理、安全確保に役立てる
例) ホシデン「MEDiTAG」(リストバンド型センサで従業員のストレス状況を把握)

次頁へ続く

導入済み/導入予定の割合および導入費用を集計したDX/ITソリューション一覧(3/5)

前頁からの続き

<<センサ+AIによるデータ分析>>

・顧客を対象としたセンサ+AI活用

店舗/施設での回遊状況、電子看板を見た反応などをセンサで把握し、ニーズ分析などを行う
例) スプリームシステム「Moptar」(店舗/設備における動線分析)

・商材を対象としたセンサ+AI活用

商材の検品、在庫/配送/陳列の状態確認をセンサで行い、品質管理や販売向上に役立てる
例) 日本システムウエア「Temptime」(運輸業における温度管理)

・設備を対象としたセンサ+AI活用

業務に必要な機械、車両、機器などの稼働状況をセンサで把握し、予防保守などに役立てる
例) FAプロダクト「予防保全パッケージ」(振動波形分析も含めた工場設備の保全)

・技能継承のためのセンサ+AI活用

データ収集/分析によって熟練者の手順を体系化し、ノウハウを若手などに継承しやすくする
例) エクサウィザーズ「exaBase スキルトランスファー」(熟練者が持つコツを可視化)

<<クラウド活用/レガシー移行>>

・クラウド移行支援サービス

オンプレミス(社内設置)の業務システムをIaaS/PaaSやホスティングなどのクラウドへ移行する
例) デジタルテクノロジー「D-Cloud Migration」

・レガシー資産移行サービス

オフコンやメインフレームを含むレガシー資産(改善/刷新の障壁となりやすいもの)を移行する
例) 日本ティーマックスソフト「Structure AtoZ」(富士通メインフレームの移行支援サービス)

・業務特化型(パーティカル)SaaS

特定の業種に特化した機能を持ったアプリケーションをクラウドサービス(SaaS)として利用する
例) 製造業(現場の見える化): 東京ファクトリー「Proceed Cloud」
例) 建設業(施工管理): アンドパッド「ANDPAD」
例) 卸売業(倉庫管理): プライセン「COOOLa」
例) 小売業(アパレル): シタテル「sitateru Cloud」

<<既存の業務システムにおけるDX>>

・FinTech(会計システムのDX)

金融サービスとクラウド基盤を融合し、会計面での利便性向上や経営支援を実現する
例) SBIビジネス・ソリューションズ「請求QUICK」(請求書の早期資金化サービス「入金QUICK」を含めたクラウド型請求書発行サービス)

・HRTech(人事システムのDX)

データ分析を活用して、従業員のモチベーション向上や職場環境の改善などを図る
例) SmartHR「従業員サーベイ」機能(データ分析によって従業員の本音を探り、離職リスクなどを低減する)

・SalesTech(営業活動のDX)

データ分析に基づいて、見込みのある顧客候補を正確かつ効率的に選定するなど
例) ハンモック「ホットアプローチ」(膨大な企業データベースの中から既存顧客との類似性などを元に顧客候補を提示するサービス)

・LegalTech(法務関連のDX)

AIなどを活用して、契約書の作成/確認を効率的に行って契約業務を支援するなど
例) GVA TECH「GVA Assist」(AIによって契約書の抜けやリスクを検知するサービス)

導入済み/導入予定の割合および導入費用を集計したDX/ITソリューション一覧(4/5)

前頁からの続き

<<既存の業務システムにおけるDX>>

・AdTech(広告関連のDX)

想定顧客層などの条件に合わせて様々な媒体への広告配信を効率的に行うなど

例) ジーニー「GENIEE Ads Platform」(広告主とメディアを橋渡しする総合的な広告配信プラットフォーム)

・物流DX

クラウド基盤やデータ分析を活用して、企業が必要とする配送業務を効率化する

例) ウィルポート「Polaris Navi」(特定エリア内毎に荷主とドライバーを結びつけるサービス)

<<ドローンの活用>>

・遠隔カメラとしてのドローン活用

立ち入り困難な高所や設備での点検や水中撮影などを遠隔で行う

例) Liberaware「IBIS 点検・レンタルサービス」(自社製ドローン「IBIS」を利用した点検サービス)

・測定手段としてのドローン活用

建設現場の測量、倉庫の在庫確認、工場内の人流把握などを行う

例) コア「みちびきを活用したドローン測量ソリューション(基準点が不要)」

・配送手段としてのドローン活用

過疎地や高層マンションのベランダなどに物資を空路で直接届ける

例) 米ウォルマート「ドローン配送」(Flytrex、Zipline、DroneUpと提携)

<<VR/AR/デジタルサイネージ>>

・補助/支援の手段としてのAR

スマートグラスやヘッドセットで作業状況を共有し、遠隔からの指示やノウハウ継承に役立てるなど

例) サン電子「AceReal Assist」(スマートグラスを用いた遠隔作業支援)

・再現/分析の手段としてのVR

データを元に製造ラインを仮想空間で再現し、実際の動作をシミュレートして工程を効率化するなど

例) 三菱電機「MELSOFT Gemini」(デジタル空間上で工場や設備の動作を再現)

・デジタルサイネージの活用

紙面の店頭POPの代わりにディスプレイやタブレットに映像を配信することで販促効果を高めるなど

例) ビーツ「クラモニ」(クラウドと連携したデータ分析も可能なデジタルサイネージ)

・メタバースの活用

仮想空間内に施設などを再現し、顧客を回遊させることで商品や地域の魅力をアピールするなど

例) oVice「oVice」(鳥観図型の表現方法で手軽に仮想空間を構築できるサービス)

<<3Dプリンタの活用>>

・3Dプリンタを用いた新たな製造手法の確立

組立や調理を伴わず製品/建物/食品などを一体成形で製造する

例) イスラエルRedefine Meat「3Dプリント製代替肉」

例) Polyuse「国内初の建築許可を得た3Dプリント建築倉庫」

次頁へ続く

導入済み/導入予定の割合および導入費用を集計したDX/ITソリューション一覧(5/5)

前頁からの続き

<<3Dプリンタの活用>>

・3Dプリンタを用いた新たなサービスの創出

個人の依頼も含めた立体造形作成を請け負うサービスを展開する

例) DMM.com「DMM.make 3Dプリント造形サービス」

イベントで販売するグッズや文化財の展示用レプリカを製造する

例) 国立科学博物館「パンダの骨格標本実物大レプリカ販売」

物流センター内に3Dプリンタを設置して製造と配送を一体化する

例) ヤマトシステム開発「羽田クロノゲート内の3Dプリントセンター」

<<ロボットの活用>>

・自走ロボットや自動運転による業務の自動化

倉庫でのピッキング/梱包や店舗での棚出しなどを自動化する

例) トラスコ中山「プラネット埼玉」(パレットやコンテナの収納/搬送を自動化)

建設現場で重機/建機(油圧ショベルなど)を自動で運転する

例) 豪Baraja(LiDARメーカー)とティアフォー(国内自動運転ソフトウェアメーカー)による建機自動運転に関する協業

飲食店の配膳やホテルのルームサービス配送を自動化する

例) ソフトバンクロボティクス「Servi」(かつぱ寿司などの導入実績がある配膳ロボット)

・ロボットとヒトの協働作業による業務の効率化

アーム型ロボットがヒトと手分けをして組立や詰込の作業を行う

例) カワダロボティクス「NEXTAGE」(カメラと2本のアームを持ち、ヒトと協働して作業を行うロボット)

・ロボットやバーチャルヒューマンによる接客

音声や映像を認識するロボットがヒトと対話し、案内や接客を行う

例) 日立製作所「EMIEW」(自律走行も可能なコミュニケーションロボット)

調査対象となった企業の属性や分析サマリの章構成などの詳細は次頁を参照

本リリースの元となる調査レポート

『2023年版 中堅・中小企業のDXおよびITソリューション選定の実態レポート』

50項目に渡る具体的なソリューションの導入状況、ユーザ企業が抱える課題とニーズ、訴求手段(メディア、SNS、セミナー、展示会など)の選択までを網羅したIT活用提案における必携書。

【対象企業属性】(有効回答件数:700社)

年商: 5億円未満 / 5億円以上～50億円未満 / 50億円以上～100億円未満 / 100億円以上～300億円未満 / 300億円以上～500億円未満
 従業員数: 20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3,000人未満 / 3,000人以上～5,000人未満 / 5,000人以上
 業種: 組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 運輸業 / IT関連サービス業 / 一般サービス業
 地域: 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方
 その他の属性: 「IT管理/運用の人員規模」(12区分)、「ビジネス拠点の状況」(5区分)

【分析サマリの章構成】

第1章.中堅・中小企業を取り巻くビジネス環境

2023年における経常利益の見通しと増減の要因(エネルギー/原材料の不足や価格上昇、国際情勢、ESGやSDGs、インバウンドの復調、長期化する円安、人材不足など、計10項目)を踏まえた上で、2023年のIT支出の増減見通しと増減の要因(キャッシュレス化、ペーパーレス化、業務の自動化、人材のリスキリング、マルウェアの脅威、生活様式の変化、クラウドネイティブ、法改正など、計23項目)について分析。

第2章.DX/ITソリューションの導入状況(概況)

自動化/システム連携/開発ツール、コミュニケーション改善/データ共有、ペーパーレス化、販売/マーケティングの改善や刷新、ジェネレーティブAI(生成AI)、センサ+AIによるデータ分析、クラウド活用/レガシー移行、既存の業務システムにおけるDX(xTech)、ドローンの活用、VR/AR/デジタルサイネージ、3Dプリンタの活用、ロボットの活用といった計50項目に渡る具体的なDX/ITソリューションの導入済み割合および初年度合計費用、今後の導入予定の割合を分析。

第3章. DX/ITソリューションの導入状況(年商別)

第2章で取り上げたDX/ITソリューションの導入状況(導入済み/導入予定の割合)の年商別傾向を分析。

第4章. DX/ITソリューションの導入状況(業種別)

第2章で取り上げたDX/ITソリューションの導入状況(導入済み/導入予定の割合)の業種別傾向を分析。

第5章.DX/IT導入においてユーザ企業が抱える課題とニーズ

DX/ITソリューション導入におけるユーザ企業の基本方針(クラウド事業者は集約/併用のどちらを選ぶか? DX人材の育成とは内製促進を意味するのか? など)、直面する課題(費用が最大の障壁なのか?、既存のシステムはどこまで足かせになっているのか? など)、IT企業に期待する支援(人材不足をどう克服するか?、最初にどの部門向けに提案をして欲しいか? など)を分析。

第6章.DX/IT導入の提案に際してIT企業が抱える課題

IT企業(IT関連サービス業)に対して、DX/ITソリューションを提案する際に直面する課題を尋ねた結果を分析し、ユーザ企業とIT企業の間には潜在する行き違いを明らかにし、DX/ITソリューション提案を成功させるための留意点を提言。

第7章.IT製品/サービスの導入検討時に利用する手段や情報源

Web検索、IT企業のWebサイト、比較サイト、展示会/セミナー(リアル/オンライン)、IT企業の営業担当との電話/メール/Web会議/チャット、新聞/雑誌、士業(会計士/税理士/社労士)など、23項目に渡る選択肢を列挙し、IT企業が認知向上や顧客接点の深化を測る際に選択すべき手段は何か? を分析/提言。

【価格】 180,000円(税別) 【発刊日】 2023年6月15日

【調査レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023IT_user_rep.pdf

上記のURLから、設問項目一覧や試読版などの更なる詳細をご覧ください。

ご好評いただいている既存の調査レポート 各冊180,000円(税別)

『2022年版 中堅・中小企業におけるRPAおよびノーコード/ローコード開発ツールの活用実態レポート』

「RPAは機能重視と価格重視のどちらの方向に進むか?」「ノーコード/ローコードが適したシステム用途は?」など、IT企業が直面する様々な疑問に答える一冊

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022RPA_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

中堅・中小企業におけるノーコード/ローコード開発ツールの社数シェアと用途

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022RPA_user_rel1.pdf

中堅・中小企業におけるRPA製品/サービスの導入社数シェアと価格重視志向の関連

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022RPA_user_rel2.pdf

中堅・中小企業がRPA活用で抱える課題とIT企業が講じるべき支援策

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022RPA_user_rel3.pdf

ノーコード/ローコード開発ツールについて中堅・中小企業が考える利点と課題

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022RPA_user_rel4.pdf

『2022年版サーバ&エンドポイントにおけるITインフラ導入/運用の実態と展望レポート』

サーバ&エンドポイント、クラウド&オンプレミスといった多角的な視点からITインフラ導入の提案ポイントを解説

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SrvPC_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

サーバ管理における課題&ニーズとユーザ企業が求めるクラウド移行パターン

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SrvPC_user_rel1.pdf

サーバ導入の注目トピック(オフコン移行/CentOS8代替/クラウド社数シェア)の動向

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SrvPC_user_rel2.pdf

企業規模別に見たサーバインスタンス数とストレージ形態の傾向

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SrvPC_user_rel3.pdf

エンドポイント端末(PC/スマートデバイス)の導入実態が示す有望な販売施策

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SrvPC_user_rel4.pdf

PC/スマートデバイスのシェア動向とITインフラ全体に影響する課題

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SrvPC_user_rel5.pdf

『2022年版中堅・中小企業のIT支出と業務システム購入先の実態レポート』

中堅・中小企業は”どの販社/SIer”から”何のIT商材やソリューション”を”幾らの金額”で導入/購入しているか?を徹底分析

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SP_usr_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

中堅・中小企業が選ぶIT商材/ソリューションの購入先/委託先

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SP_usr_rel1.pdf

年商別と販社/SIer別に見た25項目に渡るDX、業務アプリ、ハードウェア、クラウド、アウトソースの導入割合

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SP_usr_rel2.pdf

中堅・中小企業から見たベンダや販社/SIerの評価点および不満点

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SP_usr_rel3.pdf

中堅・中小企業におけるIT商材/ソリューション別の年間IT支出額と市場規模

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2022SP_usr_rel4.pdf

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

当調査データに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社ノークリサーチ 担当: 岩上由高
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル5階23号室
TEL03-5361-7880 FAX03-5361-7881
Mail: inform@norkresearch.co.jp
Web: www.norkresearch.co.jp